

同友

よい会社をつくろう／よい経営者になろう／よい経営環境をつくろう

やまがた

10
2014
OCTOBER

山形県中小企業家同友会
月刊 同友
やまがた



「第19期経営指針をつくる会」発表会

これからはスタート！スピリットを持って進もう

第42回青年経営者全国交流会in奈良 報告

10月例会のご案内

そうだ、
経営を楽しもう。
だから、
本気で向きあおう。

2014年度スローガン

「第19期経営指針をつくる会」発表会

これからがスタート！スピリットを持って進もう

8月30日、2月から半年におよんだ「第19期経営指針をつくる会」の発表会が、天童ホテルで行われ、9名の受講生全員が終了しました。今期の受講生は9名で、期間中3名の方が社長に就任しました。修了証書を受け取った受講生は経営指針書をつくり上げたという達成感あふれる笑顔で会場を包み込みました。

今年で19期目となる「経営指針をつくる会」は、「何のために経営するのか」という問いかけから始まり、経営理念、経営方針、経営計画の作成まで、修了生と受講生が同じ経営者同士として、関わり合いながら進めていきます。

今期は全社一丸体制を構築するため、労使見解をより深く理解しようと、基本となる読み合わせを毎回行いました。毎月一回の講座では、課題を社内に持ち帰り、翌月まで社員と話し合いを重ね自問自答を繰り返します。さらに、それをもち寄り、自主的に補講を開催し、修了生からアドバイスをもらいながら発表会を迎えました。

発表会の冒頭、あいさつに立った菅原委員長は、「半年かけて作成した経営指針書にはいろいろな思いが込められているはず。経営者と社員がスピリットを持っている



会社は発展していきます。皆さんのスピリットが見える発表会になることを期待します」と述べました。その後、受講生一人ひとりが、会社の未来を描いた経営指針書を発表しました。

経営指針は作成してからがスタートです。これから受講生は、社員と共有を図り、実践を続けて、全社一丸体制の企業をめざします。

以下2回にわたって、受講された皆さんの感想を紹介いたします。

みんなの幸せのための経営指針となるように

ハンズバリュー 代表 島田慶資

弊社では、従業員の6か月以内の離職率が高く、その問題に苦しみ悩んでいました。

採用面接で、どのような仕事をしたいのかヒアリングして、その従業員の個性が発揮できる配置をしている「はず」でした。また、社内イベントをひらいて楽しい雰囲気づくりをしている「はず」でした。

振り返って考えてみれば、それらは私が勝手に「やりがいを感じるだろう、たのしいだろう」と独りよがりな対策対応をしていたからの結果に過ぎなかったからだと思います。しかし、当時はそんなことはわかりません。そして、どんなに悩み、考えてみても答えがでてきませんでした。

ある時、とてもお世話になっている方から「経営指針をつくる会」のセミナーを紹介していただきました。従業員の問題が解決するならば、と考え、翌日事務局で申し込みを行いました。

経営指針をつくる会の初回のグループディスカッションで、助言者から「島田さんには人間的魅力がない」と一

刀両断されてしまい、強いショックを受けました。驚きや悲しみなどの感情もありましたが、同時に言い返せない自分があることにハッとさせられました。

セミナーでは経営者の責任について厳しく問いかけられ、何度も何度も指針セミナーを投げ出したくなる気持ちを抑え考え抜いた結果、「みんなの幸せを強く望む心」が大事であると気がつきました。その心を経営理念として従業員みんなとまとめあげました。

従業員みんなと一緒に作った経営指針書は本当に素晴らしいものができました。しかし、助言者の先輩から「経営指針は作ってからが本当のスタートなんだ。3年かけて経営指針委員会で磨きをかけなさい。」と教わりました。

これからお客様、協力会社様、地域社会の皆様、そして従業員みんなの幸せのための経営指針となるよう本気で取り組んでいきます。がんばります。

本気で覚悟を持って経営に取り組む

(株)カーサービス山形 代表取締役 小川 大輔

経営指針をつくる会を受講した最大の理由は、このままでいいのだろうかという自分の中の疑問から受講することを決意しました。社長として、そして社員の生活を支えていく経営者がこれでいいのだろうかという葛藤は常に頭の中にありました。今思えば、会社を経営する目的すらはつきりしていなかったような気がします。自分に自信がなく何が正しくて何が良いのか、会社を潰さなければよい、周りや仲良くやって給料を払って利益さえ上がっていればそれでよしと考えていました。その割に理想は高く、こうしたい、あのようになりたいなど頭の中で考えていたり、行き当たりばったりで思いつくまま会社の資金を使ったり設備投資をしたりしていました。

今回経営指針をつくる会を受講して途中まではやらされ感がありました。次の会までの宿題をぎりぎりまでやらずに前の日で終わったりしてとりあえずしのげば。という考えで受講していました。途中、受講した先輩方からアドバイスもいただきましたが、やらされ感がありましたので「はいはい」聞いていたこともあったと思います。大変失礼なことをしていたのを今振り返れば感じます。

残り2、3講となった時に、さすがに助言者の方々から言われることや自分が考えてきたことを否定されるのが我慢できなくなり委員長に「面白くありません。社長自身が面白くないことをやって社員が楽しくやりがいのある

仕事はできないと思う」と話したところ、委員長から「じゃあ、やめればいいんじゃない。別にこちらから頼んで受講してもらっているわけじゃないので」と言われました。その日はもやもやした気持ちを引きずりながら帰りました。帰ってからこれまで受講してきたことや今までの自分を振り返りいろいろなことが頭を巡りました。

たどり着いたのは自分なんだ。いかに本気で覚悟を持って経営に取り組むか。それに尽きるのだと。今までも受講中そうでしたが、中途半端で終わりにしたり、途中でやめたり、責任を放棄していることが、この会社の社風になってしまっていたことに気づかされ、反省させられました。そこからの取り組みは自分でも変わったと思えずし、計画的に提出物への取り組みができるようになったと思います。中途半端だった自分に自信と覚悟、会社の方向性とこれからやるべきことを教えてくれたのがこの経営指針をつくる会であり、貴重な時間を割いて助言をしていただいた先輩方だと思います。

これからは経営指針をつくる会で教えていただいたものをベースに自社独自のものをつくり、共通意識を持つため目的を明確にして会社の方向性をきちんと示し、理念から方針、戦略、戦術を社員みんなに分かりやすく説明し、やりがい、働き甲斐のある会社づくり、地域に必要で、お客様から支持される会社をつくりたいと思います。

全社一丸となり頑張る企業風土

(株)サニックス 代表取締役 佐藤 啓

このたびは、第19期経営指針をつくる会を受講させていただき誠にありがとうございました。

この会に参加して約半年間、毎月課題と向き合いながら、会社のことを考えて過ごしてきました。人生でこんなに会社のことを考えたことはありませんでした。

6か月の受講は宿題も含めて厳しく辛い事も多くありましたが、一つ一つの受講が気づきの連続で、自分の視野が広がっていくのが実感できました。

受講の中で「何のために会社経営をしていますか」「真の会社価値は何ですか」「本当のお客様は誰ですか」の問いに明確に答えることが出来ず、自分がこれまでいかに場当たりの漫然とした経営をしていたかを思い知らされました。

このセミナーを終えて学んだことは、経営に対する自覚と責任、企業経営を通じて社会にどの様に貢献するか、経営者と社員が立場を超えて同じ理想の価値観を共有す



ることの重要性を学びました。社員が働き甲斐を感じたり、社員の家族を幸せに出来ることが経営の醍醐味であり、労使が力を合わせて全社一丸となり頑張る会社、そのような企業風土を構築することが大切だと思いました。

この様な気づきを得ることが出来たのも、助言者からの時には厳しく、優しいアドバイスと同期受講生からの

励ましがあつたからだと感謝しています。

今後は作成した経営指針を基に理念経営を実践し、使

命と責任を果たし、社会に地域に必要とされる会社になれるよう経営に取り組んで行きたいと思ひます。

理念経営のスタートラインに立って

(有)長門屋 代表取締役 笹林 陽子

ビジネスの世界から縁遠いところにいた私が急に経営に携わることになり、何をどうしてよいのか分からず危機感だけが募る中、一大決心をして参加させていただいた「経営指針をつくる会」でした。このような私が指針をつくろうというのですから、想いだけあつても何となるものでもなく、本当に大変でした。

「お客様は誰か?」「自分の会社が提供している本当の価値は何か?」助言者の先輩方からの、考えてもみなかった視点からの問いかけに、毎回うまく応えられずにしどろもどろになり、帰ってから常にも課題を背負って過ごす毎日。初めは、なぜそんなことを問いかけるのか、その真意すら理解できない状況でした。苦しかったけれど、自分の会社だけ見て、自分ひとりで悩み格闘しているだけでは、抱えている課題を解決する道筋さえ見えて来ないことはよくよくわかつており、とにかくここで自分の力をつけて先の道を探したい、という一心でした。

毎月出される課題に否応なしに取り組むことで、自社

の歴史を知り、社員と一緒に強み弱みを洗い出し、会社の未来を考えることになりました。「労使見解」というものにも初めて出会いました。

終わりの期限が差し迫ってきても、あまりに進展の遅い私に、本当に多くの方が色々な形で助言を下さいました。そのことにより、自分よりもっと高く広い視点を持つ方の意見を伺い、自分の中に取り入れることがどれほど大切なことなのか、その価値を学びました。

また、受講の度に伺った先輩方の体験に基づくお話は、毎回大きく心を動かされました。自分から見るとずっと遠い先を歩いているような方でも、みな目指す未来を創るために、毎日努力を重ねているのだと知って、大げさでなく自分が今を精一杯生きる力になっています。

とはいえ、理念経営はスタートラインに立ったばかりです。今後、どれだけ社員さんにわかるように伝え、道標に向かって柔らかく変わっていかれるか、毎日の実践にかかっていると思ひています。

第一歩を踏み出す勇気が道を開く

(株)井上自動車 代表取締役 井上 英明

個人事業の専従者として家業に従事して24年目を迎え、代表である父親の高齢とともに様々な問題が山積した状況での受講となりました。

20年来の悲願であった事業継続のため会社法人化を第一目標に掲げ、自分にとって最後の挑戦になる覚悟を決めて臨んだ第19期経営指針をつくる会の参加でありました。

経営者として自分自身の資質にも自信が持てずにいたのが正直な思いでしたが、労使見解の読み合わせを通して徐々に経営に対する熱い思いが復活してくるのを感じることができました。

第19期経営指針の全過程を修了し、得られた結果は第一目標であった株式会社の法人設立と代表取締役としての就任、そして念願の経営理念の樹立でした。

わずか半年余りの期間のなかで、偉大なる講師の方々との出会いと、真剣に関わって下さった多くの修了生の皆様と全体を運営して下さった事務局の方々に心から感謝申し上げます。

そして、誰一人欠けることなく全員修了証を受けることができました事も大きな喜びとなりました。

恐れずに第一歩を踏み出す勇気があれば必ず道は開かれる。

自分にとり第19期経営指針をつくる会は、自分自身が経営者として指針となる会であったとも言えます。自分の至らなさを知ることができて、やるべき目標が明確になり、終わりのない挑戦の旅が始まりました。共に生きる仲間との出会いに心から感謝します。



第42回青年経営者全国交流会 i n 奈良 報告

2014年9月18日～19日、「第42回中小企業家同友会全国協議会 青年経営者全国交流会 i n 奈良」が奈良の地に於いて開催されました。今回は「和を以て貴しと為す～青年経営者よ 和の精神を以て 次の歴史の創造者たれ～」をテーマに、全国から約1300人もの会員が集いました。山形からも3名が参加しました。



第7分科会【経営指針の実践】

限界を決めているのは自分かもしれない～人口減少が止まらない、山あいの町だからできる未来づくり～

報告者：前野モータース 工場長 前野嗣郎氏(岩手同友会)



第7分科会は、岩手の葛巻町で自動車整備業を営んでいる前野モータースの前野様の報告でした。人口7,000人でクルマの保有台数は2,000台。さらに同業他社が5社。売上を維持して行くことも大変な状況の中でどう成長して行くかという課題に取り組んでいる報告でした。

経営指針を策定し、社員に浸透させてそれを徹底して貫いている経営者の後姿を社員が見ている。また、社員も何のために自分たちが整備工場仕事をしているのかということが経営指針に反映されているということで生きがい、働き甲斐を感じているということです。

クルマが壊れてから修理する車屋ではなく壊れる前に提案して予防する車屋という考えだ。アフターフォローはどこでもやっていますがビフォー・or・フォローはどこもやっていない事。そのほうがコストも安く済むし、お客様の安全を守ることが出来る考えたわけです。

また、新車を売らない車屋ということが経営指針に

(有)アド・プランニング越前屋 代表取締役 越前屋 忍

謳われているのは予防整備をしていると車の寿命が長持ちすることで代替が普通は8.5年のところ前野モータースでは13.5年のサイクルになっているとのこと。ここがお客様から支持を頂いている理由のひとつで、前野モータースの強みになっています。これが経営指針書で明確に打ち出されています。人口7,000人の市場でも十分経営を発展されている前野モータースの報告は大変勇気付けられました。

記念講演は宮大工の棟梁の小川三夫氏でした。人間教育についての内容でした。

1,300年も前の姿をそのまま残す法隆寺や薬師寺の建物は職人から職人へと引き継がれてきた師弟制度についてお話を頂きました。修行のつらさから開放された時の責任を任されたときの喜びは何にも変えがたいものでやりがいと生きがいを感じることが出来た。人間は任されてこそ成長すると。甘えがあつては人は成長しない、厳しさの中にやさしさを持つべきであるということでした。

法隆寺が1,300年もの間、建っていられるのはふぞろいの木を組み合わせたからだ。ふぞろいの木、その違いを見極め、芯を見抜き組み合わせたからこそ強く美しい建物が出来た。組織も同じではないかと思うということです。ふぞろいの職人たちが本物をつくりたいと心を合わせることで300年先の建物を建てる事が出来ると講演されていました。とても心に響く講演でした。

第10分科会【市場と雇用の創造】

マイナスからの出発！美味しいパン屋を作ることこそ私の使命～『F』PDCAの積み重ねで確固たる未来を創る～

報告者：丸栄製パン(株) 代表取締役 辻井孝裕氏(滋賀同友会)



開催プログラムは分科会、懇親会、そして二日目の全体会となっており、私は第10分科会に参加しました。

学校給食やホテル、百貨店等にパンを卸す会社の3代目となる辻井社長は、学生の頃プロ野球選手を目指して上京。しかしプロの壁は高く断念し、現会社に入社します。ところがフタを開けてみると年商の2倍もの借金があり、「俺は何のために帰ってきたのか？」と父(当時の社長)を責めますが、無言で下を向き続ける姿を見て「俺がやらなきゃいけないんだ」と覚悟を決めます。

ですが金銭的余裕もない中で百発百中の戦略を取り続けるためには、PDCAをまわす前に「F(fact)＝事実」を知ることが大事だと語ります。持ち前のバイタリティーで競合他社や小売店での情報収集、銀行金融機関のアドバイスによる経営計画作成。さらに同友会で学び「会社は自分一人の物じゃない、もっと勉強しないと。」の報告に、正に経営者の覚悟を感じました。

そしてまた、社員とは一人ずつ日報と称する交換日記を行っており、お互いの考え方の共有にも取り組んでいるとのことでした。その成果は「今は仕事が楽しいです」という辻井社長の言葉に詰め込まれていました。最後に「おいしいパン屋を作るのではなく、おいしいパンを作る地域を作る」と、地域の活性化を視野に入れたビジョンを語っていただきました。

二日目プログラムの全体会では、記念講演として「不揃いの木を組む～技を伝え、人を育てる～」のテーマで、寺社建築専門会社の(株)鶴工舎(いかるがこうしゃ)宮大工棟梁の小川三夫氏から講演いただきました。

冒頭「ロケットは様々なデータを集めて打ち上げるけど、法隆寺を立てた1300年前は思いの強さしかなかった」で始まりました。

「自分が幸せだったのは良い師を見つけられたこと」

山形県中小企業家同友会 事務局主任 高橋 徹

と語る小川氏は、師と寝食を共にしてきた修行時代の話の中で、とても厳しかったが今になってそれがどういう意味があったのか理解できるとし、「人は育てるものではなく、育つもの。その育つ環境作りが大切だ」と語り、棟梁となった現在でも弟子たちと寝食を共にしています。生活を一緒にすることで、何が得意で何が苦手で、何を考え何を見ているかがわかり、その弟子たち一人ひとりに合わせた育て方をしているということで、人材教育の奥深さを感じました。

また、木造で大きな建造物を建てるには、木の癖や育った状況までも把握し組んでいかなければならない。まっすぐに見せる為にあえて反らせたり湾曲させる技術は、威風堂々とした姿を1000年以上もたせるといいます。そして当時の宮大工の思いの強さを感じると語りました。何故1000年以上もたせなければならぬか？それは、「思いは必ずしも継承していくとは限らないもの。だが1000年以上もの間には、必ず思いをわかってくれる職人が現れる。だからその職人が現れるまでもたせなければならぬ。そしてまた、弟子をきちんと育てて、その思いを繋いでいく努力も必要だ。」の言葉に感動が走りました。

個人的に感じたことですが、このレベルになると仕事＝生活もしくは仕事のために生きるという言い方がふさわしいと感じました。ただ、現代において労働法やワークライフバランスなどには相反するもので、寝食を共にして働くことは難しいと思えます。この二つを繋げられるものは、経営者が思いを社員に伝え、共に成長し地域をも発展させていく「労使見解」をもって実現可能ではないかと感じました。

全国大会はとて素晴らしい刺激をいただけます。是非次回には沢山の会員さんに参加していただければと思います。



10月例会のご案内

・どの支部の例会にも参加できます。・月に一度は参加しましょう。

山形支部

経営を楽しむには… ○○が大切

2014.10.22(水) 18:30～

場所：山形ビッグウイング 4F 中会議室
山形市平久保100 ☎023-646-6677

報告者：(株)ソネット 代表取締役 尾形泰弘氏(庄内支部)

各種研修や書籍から学び、自分なりに経営理念や事業計画を立て経営にあたってきた。

ある時、先輩経営者より同友会の経営指針セミナーを紹介され、経営に困っていたわけでもないが、更に会社が良くなればと、受講を決めて同友会に入会。セミナーで「従業員との関係の構築」という知らない領域があったことを知る。社員さんと向きあって話し合う中で、今まで知っているつもり、やっているつもりで経営していたことに気づきます。

そして、出来上がった経営指針書をもとに毎月勉強会を重ね、社員と共に実践してきました。あれから四年が経過し、社員から意見や提案が出てくる会社になりました。「一人で考え進めてきたトップダウン経営から脱却した今、社員さんとの一体感を感じ、経営が楽しい」と語る尾形社長を庄内から迎えて学び合います。必見です。お誘い合わせの上、ご参加ください。

庄内支部

クルマ好きでない私が、クルマ屋をついだわけ ～10年間で変わった私と変わらない私～

2014.10.21.(火) 18:30～

場所：鶴岡市総合保健福祉センター『にこ♥ふる』
鶴岡市泉町5-30 ☎0235-25-2731

報告者：(有)大山ボデー 専務取締役 佐藤知志氏

クルマ屋に生まれながら、そんなにクルマ好きではなかった佐藤専務。高校の時に「人との関わりを大事にする仕事をしたい」との思いが芽生え、会社を継ぐことを決意します。ディーラー勤めを経て、「親の期待に応えたい・社員の期待に応えたい・お客様の期待に応えたい」を胸に30歳で(有)大山ボデーに入社。当時は数値目標も会議もなく、社員がバラバラの方向を向いている現状に唖然としました。「社員がかわいそう・社員を幸せにしたい」と強く感じ、入社4年目に経営指針セミナーを受講、そこから自分も社員も会社も徐々に変化していきました。家業を継いで10年、これまで何を感じ何に取り組んできたのか。そして節目として新たなスタートを切った佐藤専務が熱い思いを語ります。

寒河江支部

トライアスロンから学び ～家業から企業へ～

2014.10.27(月) 19:00～21:00

場所：寒河江市技術交流プラザ
寒河江市中央工業団地153-1 ☎0237-86-1991

報告者：山竹商店 後藤武郎氏

昭和24年に創業した山竹商店は、小売店として地域の生活を支えてきました。サラリーマンを辞め三代目として、同店へ入った後藤氏の趣味は、トライアスロン。今年も北海道洞爺湖で行われた200kmを超えるレースを完走しました。過酷なレースを乗り切る体をつくるため、食事から全て生活管理をしている後藤氏。そこには「経営に通じるものがある」といいます。オリジナルのお酒とワインも販売し、物語を付けて売ることに取り組む後藤氏の報告をもとに、経営者として、自社としての魅力づくりを考え合います。

置賜支部

経営指針の浸透で全社一丸体制に ～社員と共有する仕組みづくり～

2014.10.22(水) 18:30～

場所：伝国の杜
米沢市丸の内1-2-1 ☎0238-26-8000

報告者：(株)菊池技建 代表取締役 菊池幸生氏

2009年に経営指針書を作成し、社長に就任。会社の方向性を明確にし、率先垂範で進む中、自分の仕事量の限界を知り、社員と経営指針書の共有が出来ていないことに気づき、行動につながる経営指針書づくりに着手します。

全体方針に沿った部門ごとの単年度計画の作成をお願いし、受け身体制からの脱却をめざしてきました。朝礼や会議ではみんなが情報を共有できるように、見える化を図り、PDCAサイクルを回し、目標を達成する組織に変わってきました。

「よいいえ」づくりに邁進する菊池社長の報告をもとに、社員と目的を共有し、目標に向かって進む会社づくりを考え合います。お誘い合わせの上、ご参加ください。必見です。

さくらんぼ支部

唯一無二、再三、四苦八苦

2014.10.24(金) 18:30～21:00

場所：東根職業訓練センター
東根市中央3-1 ☎0237-43-2345

報告者：トヨタライン(株) 常務取締役 齋藤和彦氏

齋藤氏は、運送業を営むトヨタラインに後継者として入社して10年目を迎えます。

この10年だけでもトラック業界は、軽油高騰、法改正、ドライバー不足など、目まぐるしく変化し続けました。カルチャーショックからスタートし、思考錯誤を繰り返し、運送業として唯一無二の存在であり続ける為に、リピートが再三くる運送会社をめざし、皆さんに助けられながら、楽しく四苦八苦してきました。

「大きな会社が生き残るのではなく、変化に対応できる会社が生き残る」を信条に持つ齋藤常務に、自社の取り組みを報告していただきます。

市場・顧客の変化と潜在するニーズをどうつかみ、どう対応して業績アップにつなげていくかを学びあいます。

第6回理事会報告

◆日時:2014年9月10日(水)16:00~18:00 ◆会場:中山温泉ゆ・ら・ら
 ◆出席:西塔、青柳、後藤、安藤、佐藤(弘)、若木、水沢、奥山、庄司、玉津、阿部(和)、小林、大場、川合(順不同敬称略) ◆事務局:伊藤、矢作、高橋

青柳副代表理事が議長を務め、下記の議事をすすめた。はじめに、西塔代表理事より、9/10午前中に、労働局より新規学卒求人への要請があり、「若者が山形に残ってもらえるように同友会として頑張りたい」と応えたことを紹介した。

■報告事項

- 1) 中同協第1回常任理事会(8/21)(西塔代表理事)
- 2) 中同協組織問題全国交流会(8/21~22)(安藤理事)
- 3) 中同協社員教育委員会(8/22)(阿部理事)
- 4) 中同協経営労働委員会の報告
(経営指針副委員長 赤塚氏 レポート)
- 5) 第19期経営指針つくる会発表会(8/30 9名修了)
(矢作事務局次長)
- 6) 山形支部長交替の件 伊藤尚彦氏から副支部長の阿部秀顕氏に交替する。(西塔代表理事)
- 7) 消費税増税・税制に関するアンケートの実施(9/1~9/19)
(伊藤事務局次長)
- 8) 米沢市条例学習会報告レポート(9/6)(文章:佐藤松雄氏)
- 9) 2014年度8月次決算報告(伊藤事務局次長)

■承認事項(入・退会承認)入会0、退会3名 9/10現在 418名

■討議事項

議題1:会員増強(組織強化)の取り組みについて

はじめに、安藤理事より、中同協組織問題全国交流会で出された、「強い同友会づくり! 増える組織、減らない組織チェックリスト」の説明があり、各支部・委員会で活用することが決まった。

組織委員会の活動、最上地域の新支部プロジェクトの活動報告と提案があり、下記の点が決定した。

- ①名称を新庄・最上支部(仮称)準備会とする。2015年6月設立予定。
- ②組織委員会の補正予算を組む。
(ブロック支部長交流会剰余金ほか)
- ③毎月、第3水曜日を増強デーとして全支部で取り組む。
- ④新パンフの作成は、組織委員会一任とする。デザインはFLOTさん、印刷は入札とし、完成は10月中を予定。

議題2:第12回経営研究集会の準備

実行委員長の大場理事より、最終予算(案)、各支部参加目標の提案あり、承認された。

なお、行政職員、山形大学生の参加費が無料となることを確認した。

◎各支部参加動員目標数

支部名	会員数	目標数	会 員	社員/ゲスト	合 計	昨年実績
山 形	214	130				121
寒 河 江	54	25				26
さくらんぼ	55	25				24
置 賜	45	25				39
庄 内	53	15				11
ゲ ス ト		10				45
合 計	421	230				266

*支部所属の市町村(商工観光課、観光協会、商工会議所、商工会)への広報活動のお願い

議題3:「外形標準課税適用拡大」反対への取り組みの件

西塔代表理事より提案があり、山形同友会として、反対署名活動と国会議員への要請活動をすることが決定した。

署名は、第1次集約9/30、第2次集約日を10/31とし、例会、委員会等、あらゆる機会に署名をお願いすることとなった。

議題4:会員企業より、宣伝依頼の件 常任理事会で検討することとなった。

■理事経営体験報告

◎報告者:榊タマツ 代表取締役 玉津弘之氏(2003年入会)

座長:阿部理事

*次回報告者

月	報告者	座長
10月	越前屋理事	齋藤専務理事
11月	奥山理事	水沢理事
12月	阿部(秀)理事	

■確認事項

- 1) 金融庁業務説明会の参加依頼について
 - 日時:10月2日(木)午後1時30分~
 - 会場:山形財務事務所 ◎出席者:越前屋理事
- 2) 山形労働局職業安定課からの「魅力ある職場づくり」の要請訪問
 - ①時期:9月17日(水)13:30~13:50
 - ②対応:理事の方に依頼中
- 3) 第42回青全交(9/18~19奈良)
 - 3名参加 (越前屋氏、金田氏、高橋事務局主任)
- 4) 第4回人を生かす経営(11/20~21 長野)の参加要請
- 5) 第6回理事会の開催日程について
 - 日時:10月8日(水)午後4時~午後6時
 - 会場:同友会事務局 ●議長:及川副代表理事

■閉会挨拶 後藤副代表理事

支部・会員名・ 企業名・役職変更

- (株)大河原自動車販売(山形支部) 専務取締役 大河原克彦氏⇒ 代表取締役社長 に変更
- (株)日本プレス広告社(山形支部) 取締役専務 鈴木淳悦氏⇒ 代表取締役社長 に変更
- (株)中村紙工(山形支部) 専務取締役 中村祐一氏⇒ 代表取締役社長 に変更
- 井上自動車工場(置賜支部) 代表 井上勉氏⇒ (株)井上自動車 代表取締役 井上英明氏 に変更

同友やまがた10月号(2014年10月1日発行/通巻259号)

From Editor

★出張の帰りに久しぶりに仙台から仙山線を利用しました。夕方だったこともあり車内は通勤、通学客で超満員。しばらくつり革につかまり、車内を観察。若い人が多くスマホを利用している人が約6割。本を読んでいる人は年配の女性がたった一人でした。これも時代の流れと感じました。★各駅で停車するたびに乗車客が降り、山形県に入る頃には車内はガラガラで山形駅に着いたときは私を含め5人でした。出張の会議で人口減少が課題としてだされたばかりで、中都市仙台と地方の山形の現状が身にしみました。今年5月に日本創世会議の試算で2040年に若年女性の人口が50%以上減少し、消滅可能性都市とされた市町村数は東北では青森35、岩手27、宮城23、秋田

24、山形28が頭をよぎりました。★中小企業家しんぶん(9/25号)に、農林水産省が8月に発表した都道府県別の2012年食料自給率のデータが掲載されましたが、カロリーベースでは1位北海道200%、2位秋田177%、3位が山形133%、そして青森、岩手、新潟と続きます。日本の食料基地として奮闘しているのは北海道、東北であることに希望を持ちました。★確かに、今何もしなければ人が減り地域がなくなっていく可能性は高い。9月米沢で行われた「中小企業振興条例学習会」の墨田区の高野氏の講演にヒントがありました。歴史文化を活かし、行政、企業、大学、農業などの立場を超えて、そこに暮らす人たちが地域資源を最大限に活かす“コト”を始めなければと思います。(由)



“知り合い、学び合い、援け合い”
山形県中小企業家同友会

〒990-2461 山形市南館三丁目26-26 スタジオ・アヴァン 102号
 TEL(023)645-5500 FAX(023)645-5583
 URL:http://yamagata.doyu.jp/ E-mail:info@yamagata-doyu.jp